

第30回全国健康福祉祭あきた大会

ねんりんピック秋田2017

監督・選手インタビュー

1面に続き、大会参加者に登場してもらった。

アジア優勝チームが初参加

ねんりんピックの開催30回目にして、宮城県から軟式野球の種目に出場したのは今回が初めて。2013年の「ASIA (アジア) 遠征軟式野球大会」でアジアチャンピオンに輝くなど、国内外で実績のある「登米友球」が選出された。

結成10年。登米市民を中心に60歳以上は34人が所属し、市内の新田総合運動場で練習に励んでいる。今回は15人が現地へ向かい、初戦はエース赤坂吉良さん(67)の粘りのピッチングと、好調な打線で勝利。赤坂さんは「仲間が打ってくれ、自分も強い気持ちで投げられた」と笑顔を見せる。

目標は優勝だったが、惜しくも準決勝で敗退。監督の佐藤学さん(67)は「対戦チームはうちより若い選手が多く勢いがあったが、他の大会で顔なじみの人たちの元気な姿に力をもらった」と野球仲間との再会を喜んだ。



アジア大会に出場した際に笑顔で記念撮影

軟式野球
とめ ゆうきゆう
登米友球

三浦さん(写真右から2人目)と「宮城志波姫チーム」のメンバーたち



ペタンク

三浦安子さん(宮城志波姫チーム)

「ペタンク」は目標球に向けていかに近く金属球を投げられるか、その数を競う球技。普段一緒に練習しているグループの中から監督兼選手の黄海英夫さん(84)ら3人とともに出場し「高野者眞」を受賞したのが三浦安子さん(88)だ。「秋田大会はともいって雰囲気だった。出場できたのはいつも支えていただいている皆さんのおかげ」と感謝する。三浦さんがペタンクを始めたのは約10年前。定年後の趣味として始めたグラウンド・ゴルフが冬は休みとなるため、室内でもできる通年スポーツとして黄海さんらに誘われたのがきっかけだった。「冬もできて『入った』『もっ少し』と会話を弾ませながら皆で練習するのが楽しい。これからも体が動く限り、皆さんと一緒に楽しんでいきたい」と笑顔で話していた。

仲間とともに楽しく競技

震災乗り越え元気な姿披露

東日本大震災以降、2回目の参加。本来なら宮城県内の大会で上位に入賞したチームが出場するが、今回は県からの推薦で参加が決まった。

監督の星野一子さん(77)は「推薦されたと声掛けをしたら、みんな『参加します』と即答してくれました。ためらう人はいなかった」と振り返る。

星野さん以外のメンバー6人は津波で自宅が半壊または全壊と甚大な被害を受けた。震災から6年がたち、全員気仙沼市内と南三陸町に新しい住居が決まって心身ともに落ち着きを取り戻し、心に余裕ができてきたタイミングだったという。

当日は岩手県大船渡市出身の演歌歌手・新沼謙治の楽曲「ふるさと」は今もかわらずに合せて太極拳を披露した。

星野さんは「この曲が私たちの今の思いにぴったりで、気持ちよく演技できた。全国の皆さんのおかげで立ち直れた。今大会で元気な姿を見せられてよかった」と感想を語った。



宮城県気仙沼チームのメンバー

太極拳
宮城県気仙沼チーム